くにみ

【才77号】
昭和39年2月15日発行
非売品
発行所　国見町公民館
発行人　佐藤善次郎
編集人　鈴木美一
印刷所　宇佐美印刷所

◎温かい心で青少年を育てましょう

筋金入の農業人つくり
農村建設班の合宿

昨年十二月開班式を行なった国見町農村青年建設班は、去る一月十日から合宿訓練に入り、爾中一か月の修行を終って二月八日閉講式を行なった。町内各部落から推せんされた優良青年二十名は、この一か月間、補導員五十嵐衛氏を中心に、町の青年研修所に宿泊し、学習、作業、レクリエーションなどすべての共同生活を営なんだ。尚これから数回の定期研修と二泊二日の研修旅行を行ない、三月末日解散後も、月一回づつの集合研修を行なうことにきめられた。町では来年度も第二期生を募集する予定である。

班員の手に成る機関誌「土の音」の中から二三紹介する

"地上最大のやりがい"
―班員諸君に望む―

諸君は、「農村青年建設班」という、今まで聞いたこともない名称のもとに、どんなことをするのかその目的も知らずに、部落長さんや農業改良推進員、改良普及所の先生方に勧められて入班した人が多かったことと思います。しかし、開班式を行ない、二回の定期研修を重ね、更に一か月の合宿訓練に入った今日ではその目的も理解されたことでありましょう。現在のような貧困な低所得農業経営などのようにしたら他産業従事者なみの、明るく豊かな文化生活のできる農家にすることができるか、更にまた、どのようにしたら町全体を明るく住みよくすることができるかということを、みんなで砌磋琢磨し、共同生活をしながらその方法手段を見つけ出すことです。そしてそれを具体的に実行して、合理的に近代化し、豊かな文化生活をするというのが目的であります。立派に基盤整備された田畑に、大型機械で一貫作業を行なえば、肉体的にも精神的にも余裕があり、都会人にも劣らぬ程度の高い衣食住の生活、考えただけでも胸が躍ります。こう考えてくると、諸君に課せられた任務は非常に重大なものがあるといわねばなりませんことばをかえていえば、若い情熱とたくましい実践力のある諸君には地上最大のやりがいのある仕事であるといえましょう。

農業の前途に希望を持って国見町農村青年建設班に参加された才一期生として、更に大きな夢を持ち、開拓精神を涵養して目的達成のため頑張ってください。私も諸君に負けず、精神年令を若返らせて大いに奮発しましょう。そして開班式における佐藤公民館長殿の祝辞の中にありました「一期一会」の精神に徹し、生涯忘れることのない自分達の心の中の歴史の一ページとして残したいと思います。

五十嵐　衛

合宿日誌から

×月×日　雪
朝の太鼓の音に目をさます。冷たい水で顔を洗う。ワッショイ、ワッショイ、からだの中まで凍るような半田おろしの中を、一団となって走る。若人の掛け声が町から町へと響きわたる……と書くと大へん景気がよいが、実はこのかけ声が「辛い」「辛い」ときこえるようなのだ。まったく辛い。もう止めようか、でもやめても心配だ。やがて朝食となる。かけ足後のごはんのうまいこと、わが家ではとても味わえない。

×月×日　晴
講義、昼食、講義、夕食、講義、ああ、長い一日だった。合宿生活……私には始めての経験だ。一か月の辛抱、はたして僕には出来るだろうか、途中であきはしないかと心配だ。

×月×日　雪
合宿生活にも少し馴れて来た。朝の太陽が私を待ってくれるようで、どんな寒い朝でも平気になった。町まちにひびくかけ声も「今に見ていろ」「今に見ていろ」「この建設班の若い情熱を」と聞える。私は自分でも不思議に思うほどファイトが湧いて来た。毎日毎日が楽しくなって来た。夜かけ声が町へとなる。友人と話ができる。構造改善の話、恋愛の話、自分の母にも父にも話れないような話でも、なんの遠慮も気兼ねもなく話せるのだ。私は少しずつ希望が燃えて来た。このようなきびしい訓練が、人生には必要なんだとわかって来た。さあ、あすもやるぞ。

×月×日　曇
農業構造改善事業も今は寒風吹きすさぶ冬だ。金がかかる。減収はする。その他問題は星の数ほどある。辛い。ほんとうに辛い。途中で冷たい風にまいりはしないか、不安だ。だが、ここを勇気をもって耐えるところだ。しかし、やっぱり不安だ。もうやめようか。でもここで辛棒しなければわが町はマンネリズムになってしまう。今の農村から早く脱却したい。苦しみに耐え、努力していくならばわが町にも春がおとずれるであろう。

佐藤　隆夫

トラクター運転

「ダッダッダダダダ……」たくましいエンジンの音、ハンドルにぎる手に力が入る。クラッチを入れ、アクセルをふみこむ。グーッと発進だ、そして快い振動。今、自分の手で、この大きな機械が動いているのだ。

思わず感激する。これからの新しい農業の花形として走る。ホイルトラクター、"さあやるぞ"

浅野　孝保

一戸もれなく
ラジオ農業テキストを!!

ラジオ農業学校はご存じのように、昭和三十六年度からNHKと県と県教育委員会と三者共催で始められ、毎朝放送を通じて、その節の農事の学習をつづけております。最近テレビの普及によりラジオ受信機がなくなったとかいろいろ悪条件を並べる人もありますけれども、近代的な農業のあり方を研究し、高度な農業技術を身につけるため、一年中を通して勉強をつづけようとする人には、この上ない好参考書として、このテキストを購入し、座右におく方が非常に多くなりました。それで、わが国見町では、産業振興策の一助として「全戸備えつけ」をめあてに、ただいまその申込みを募集しています。各部落の農業改良推進員がとりまとめることになっていますのでおくれないように申込んでください。

記
一、申込期限　二月二十日
二、申込方法　別紙申込書に記入し、代金を添える。
三、代金　一部二二〇円のところ町で半額補助するので個人負担は一〇円です。

◎全農家ということになっていますが、農家以外の方でもさしつかえありません。
◎青年学級、婦人学級の皆さんはぜひ一人もれなく申込んでください。

婦人講座

◎才六回
日時　二月二十四日(月)
講師　永井文心先生
◎才七回
日時　三月七日(土)
講師　沼崎忠蔵先生

完成間近い北古舘住宅

わが町では住宅対策として北古舘に五か年計画で一〇〇戸の住宅を建てることになり本年度ぶん二〇戸は三月末日完成を目ざして工事を急いでいる。一戸当り九・五坪、六畳四・五畳の二室に台所、便所つき、建設費三九万円、近く入居者の募集をするとのこと。

【写真】は調整槽の上から見た北古舘団地

再び選ばれた赤井畑町長に望む

公民館長　佐藤善次郎

去る一月二十六日の選挙に際し、町民大多数の支持をうけて当選せられ、再び国見町の首長として、町政の責任者の位置に立たれまことは、まことに喜びに堪えません。衷心から祝意と敬意を表するものであります。つきましては、この際公民館長の立場から、失礼をもかえりみず、二三の意見を述べさせて頂きたいと思います。町政運営の心構えの上に幾分でもご参考になりますれば、幸これに過ぎるものはありません。

才一に選挙のしこりが、町政に悪影響を及ぼさざるよう留意することであります。一週間の選挙運動期間を見ておりますと、運動方法が加速度的に白熱化し、殆んどお祭り騒ぎの様相をおられませんでした。この法が加速度的に白熱化し、殆んどお祭り騒ぎの様相をおられませんでした。ご承知のようもその一人であることはもちろんです)自体が責任を負うべきことでありますが、それだけに今後町政運営の仕方に恣意があってはならないと思います。すでから、当つねに自己批判を忘れては、もし自己批判がなくなった時は、一瞬にして奉仕者の外です。聖徳太子の十七条憲法の才一条に、「和をもって貴しとなす。さか

とぼには、私も考えずにはするものであります。

次に、現代の町長という地位は昔と異なり、町民に奉仕するもののすわる座であります。それだけに、奉仕者に恣意があってはならないと思います。目焦に迫る農業の構造改善事業や中小商工業者の体質改善等の大きな問題に勇敢に取り組むと共に人間的愛情の発露によって小さきもの、弱きものにも恐れず、一部落長さんや農業改良推進員、改良普及所の先生方の勧められて入班した人が多町では来年度も第二期生を募集する予定である。

班員の手に成る機関誌「土の音」の中から二三紹介する

"地上最大のやりがい"
―班員諸君に望む―

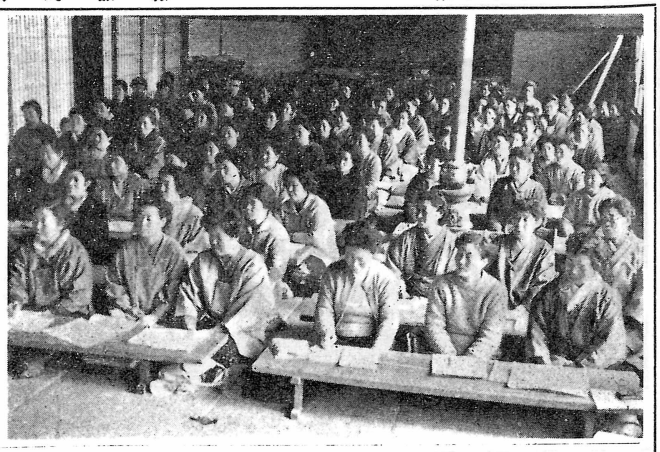
諸君は、「農村青年建設班」という、今まで聞いたこともない名称のもとに、どんなことをするのかその目的も知らずに、部落長さんや農業改良推進員、改良普及所の先生方に勧められて入班した人が多かったことと思います。しかし、開班式を行ない、二回の定期研修を重ね、更に一か月の合宿訓練に入った今日ではその目的も理解されたことでありましょう。現在のような貧困な低所得農業経営などのようにしたら他産業従事者なみの、明るく豊かな文化生活のできる農家にすることができるか、更にまた、どのようにしたら町全体を明るく住みよくすることができるかということを、みんなで砌磋琢磨し、共同生活をしながらその方法手段を見つけ出すことです。そしてそれを具体的に実行して、合理的に近代化し、豊かな文化生活をするというのが目的であります。立派に基盤整備された田畑に、大型機械で一貫作業を行なえば、肉体的にも精神的にも余裕があり、都会人にも劣らぬ程度の高い衣食住の生活、考えただけでも胸が躍ります。こう考えてくると、諸君に課せられた任務は非常に重大なものがあるといわねばなりませんことばをかえていえば、若い情熱とたくましい実践力のある諸君には地上最大のやりがいのある仕事であるといえましょう。

農業の前途に希望を持って国見町農村青年建設班に参加された才一期生として、更に大きな夢を持ち、開拓精神を涵養して目的達成のため頑張ってください。私も諸君に負

◎今月は選挙について投書がたくさんありました……次号にて紹介します

身近かな問題で話し合い

好評の婦人講座



明るい町づくりは婦人の教養からと、昨年末から始められた婦人講座は、回を重ねるごとに参加者を増し、主催者をよろこばせている。才四回（一月十八日）は保原保健所長長浦小一郎先生の農夫（婦）症と健康管理、福島高等予備学校長佐藤信先生の婦人と政治などの講義をきき、才五回（二月二日）は県中央農協講習所長安原先生から農林問題と婦人の役割について、現在さわがれている農業構造改善のことをくわしくきいていずれも感銘を深くした。尚二日の午後は四つの分科会にわかれ、別記のような話し合い学習をしたので更に効果が大きかった。

【写真】は会場一ぱいの聴講者

第一分科会

【テーマ】嫁が喜んでくるような農家農村にするにはどうしたらよいか

司会者　横山キサ
記録者　佐久間いち
助言者　佐藤良子
　　春日佑幸
　　五十嵐衛

（話し合ったこと）

「なぜ娘たちは農家をきらうのか」ということについて。

(イ)農家の嫁の立場はあまりにみとめられていない。

(ロ)農休日がきまっていない　ある地区では定められていてもさっぱり守られていない。

(ハ)嫁のこずかいはお正月とお盆に少しばかり頂くだけで何も買えない。せめて月千円ぐらい頂きたい。

(ニ)農家の嫁は自分で自分のものを買うことができない。すべてお姑さまに買ってもらい、それが気に入らなくても、喜んで頂かなくてならない。自分のものは自分で買ってみたい。

(ホ)それほど農家は経済的に豊かでないとしたらとても嫁に行くきになれないだろう。

(ヘ)農家はとかく人間関係がわずらわしい。そして農村では他人の生活に干渉しすぎる。

(ト)田植や蚕時の外には女にも自由時間がほしい。早朝から夜半まで寸分のすきもなく動きまわって暮すのではやりきれない。生活に計画性をもたせれば相当の余裕をつくることができる。

その他にもいろいろあるが、それらの壁を一つ一つつき破り、障害物をとり除いてゆくために、

(イ)お父さんもお姑さんも、もっと勉強して、新しい社会のうごきをよくつかむことが大切である。

(ロ)わが娘をやりたいような家庭をわが家でもつくるよう努力する。

(ハ)子供の教育にもっとほんきになって、世の中の娘たちに信頼されるような息子を育てること。

(ニ)農業基本法などをよく勉強し、構造改善なども出来ることから実行にうつして行くこと。

(ホ)自由時間や公休日を設けたり、月給制で小遣いをやったり、婦人学級などに喜んで出したり、家庭話し合いの時間を設けたり、やる気があれば今すぐにもできることがたくさんある。

第二分科会

【テーマ】公明選挙を実現し、社会を明るくするにはどうしたらよいか

司会者　村上トク
記録者　羽賀えい
助言者　早田盛
　　佐藤光一

（話し合ったこと）

一、こんどの選挙で困ったことはなかったか。

(イ)運動がはげしく、いろいろのデマがとんだ。

(ロ)有権者、候補者も合わせてあまりに感情的となり冷静を欠いた。

(ハ)大人同志の悪口が子供たちにまで浸透した。

(ニ)意志のないものまで巧みに誘導して、手伝いと称して事務所に引出された

(ホ)「この際だから飲んでやれ、食つてやれ」式の者が多かった。特に中壮年層男子に多かった。

(ヘ)「あれはあっちだ」「あの家はこっちだ」と色分けされ、個人の自由も秘密も守れなかった。

(ト)日頃仲よくつきあい、平和に暮していた隣近所の人たちが、いつのまにか両派に分れて相対立することになった。

(チ)これまで政治学習と称して習ってきたことも、あまりにはげしい社会のあらしにまきこまれ、実行できない。

(リ)選挙の三原則を守るとか義理人情におぼれるなとか、買収供応を追放せよとか、一応あたまの中にはあっても、いざ現実の問題につきあたると正しい判断をすることができず、周りの人に動かされてしまう。

(ヌ)売収、供応について

(イ)日本人は、意味もなく人をもてなしすぎる。その習慣が選挙のとき露骨に現われる。

(ロ)売収、供応は不公明選挙の根源である。この病根を切開除去するのは有権者一人一人の自覚である。

(ハ)売収、供応はいつ、どこで、どんな形で行われるかをよく見きわめ、その候補者には絶対投票しないことにすればよい。

(ニ)選挙ポスとか選挙ブローカーといわれる人のつかう手である。

三、弱味につけこむということについて

(イ)候補者又は立候補予定者はわらをもつかみたい心境でいる。そこにつけこんで票の売り込みをしたり、公約を強要したり、私的な約束をさせたりすることはひきょうであり政治の公明を妨げることになる。

(ロ)選挙されて公職についているあなたは、表面いらがっているようで内心は弱いのである。四年後のことを考えて常にびくびくしている。

四、選挙の三原則を守ろう

(イ)政治の主体者である住民一人一人の意志を正しく代理してくれる人を選ぶのが選挙であるとするならば、あくまで公正、自由、秘密の三原則はわれわれ選挙民の手で守らなければならぬ。

(ロ)選挙をかえりみて、はたして自由な投票をしたか、自分の支持する候補者の名を秘密にしていたか、他人の秘密と自由を侵さなかったかを考えてみた。

まとめ

有権者の各自が良識をもって自分を自覚し、政治知識を身につけ、社会実情をよく認識して、選挙をとおしてよりよい社会をつくりあげて行きたい。

第三分科会

【テーマ】嫁の出稼ぎについて考えよう

司会者　高橋トミ
記録者　佐藤ツル
助言者　金田保美
　　佐久間直次

（話し合ったこと）

一、嫁たちはなぜ出稼ぎするのか

(イ)家の経済を助けるため金がほしい。

(ロ)社会の要請、つまり中小企業で人手不足をおぎなうため。

(ハ)一種の流行で隣り近所でみんなが行くから行くというものもある。

(ニ)現金をとると姑や主人から「よい嫁」だといわれる、つまり嫁の座が高くなる。

(ホ)社会の勉強をするため。

(ヘ)家庭内の圧迫感、重苦しさから逃れるため。

二、働きに出たために困った

(イ)朝早く夜おそいため子供のせわができない。

(ロ)子供の勉強がみてやれない。

(ハ)子供の話し相手になってやれない。

(ニ)子供のことは一さい姑様まかせになる。

(ホ)せっかくつくった若妻グループの活動がうまくできない。

(ヘ)料理のことなど考えてやるひまがない。インスタント食品や簡単なものでまに合せてしまう。

三、どんなことに注意しなければならないか

(イ)身だしなみに気をつけ、日頃学習したことを忘れないこと。

(ロ)わが子の母であり、一家の嫁として、国見町の女性としてのプライドをもって行動すること。

(ハ)事業主の理解によりなるべく残業などせず、定時に帰って家族の信頼にこたえること。

(ニ)子供のしつけ、夫や年よりに対するサービスということに努力すること。

(ホ)家族の努力により仕事の分担などを考え、過労のため健康を害することのないよう気をつける。

(ヘ)金銭の出し入れを正確に記帖し、浪費のくせがつかないようにする。

四、子どものしつけについて

(イ)子供をしかっているとき姑さんは口出ししないでほしい。

(ロ)子供の前で姑さんは嫁をしからないでほしい。

(ハ)子供の教育費は親の手からわたしてやりたい。

(ニ)姑さん達も新しい社会の勉強をして頂きたい。

第四分科会

【テーマ】婦人教育をもっと効果的にするにはどうしたらよいか

司会者　黒田ヒロ
記録者　小野悦子
助言者　安原吉四郎
　　春日一憲

（話し合ったこと）

一、二、（略）

三、婦人学級や婦人会の集まりに出るため家族の協力を得るにはどうしたらよいか。

(イ)出席するときは前日に仕事をよく片付けておく。

(ロ)家に帰ったらみんなにわかるよう、その日習ったことをお話してやる。

(ハ)通知を出すとき、本人でなく、主人又は世帯主あてに出したらどうか。

(ニ)家族の協力体制をつくっておくことがたいせつ。それには子供たちや主人姑さんと常に話し合っておくことが一番だ。

(ホ)母親が勉強することは家族みんなのしあわせを増すことになるということをみんなに認識させること。

木の上にある自転車

（デンマーク便り第十二信）

月日の流れることは夢の如く、私たちが横浜を出航して以来一年が過ぎ去ってしまいました。私も相変らず元気に暮していますから他事ながらご安心下さい。

学校生活も四か月過ぎ、あと二か月だけとなり、学校生活が終ると同時に帰途につきます。帰る日が近ずくにつれ毎夜見るのは日本の夢、今年六月中旬には福島に帰えることになると思います。今後の予定として三月二十五日学校が終った後、ヨーロッパ各地の農業の視察を兼ねて旅行をしようと思っています。イギリスにおける大農、チューリップと酪農の国オランダ、農業構造改善を進めている西ドイツ、稲作りのイタリー、山岳農業のスイス、果樹地帯のオーストリヤ、その他ベルギー、ハンブルグ、フランスなどを約一か月間旅行し、四月下旬か五月上旬ヨーロッパを出航することになりましょう。

この一か月間毎日デンマーク生活の整理や反省などに追われています。デンマークの年越し、正月といってもクリスマスと違って特別の行事がなく、日本の正月が思い出されてなりません。ただ変っているのは、三十一日の年越しは、一晩中一睡もしたいでビールや酒を飲みながら夜を明かします。十二時になるとお互いに新年を祝い、各家庭では爆竹を上げて祝います。この晩は、どんな悪いことをしても許されるそうで、若い人たちが三三五五集って各農場を巡り、イタズラをして歩きます。例えば、隣りのホークやスコップが庭にあったり、トラクターのワゴンが五㌔もはなれた畑の中にあったり、自転車が木の上にあげたりといったことです。思わず苦笑するようなイタズラが方々に見られます。私も朝五時までつきあいましたがとても疲れて農場に帰り、元旦の午後二時迄寝てしまい、すっかり今年は寝正月でした。私はその後、学校の友達の家を訪問しながらデンマークを旅行しました。

今度の旅行でデンマークの大体を見たわけですが、農家の生活水準の高さにはほんとうに感心させられます。日本なら、外国人が視察に来るとか訪ねて来るとうした講習会が開かれ、こ
いったら大へんなことですが、この国では特別にどうれだけの会費で、自分から
ということなく心から歓迎進んで講習会に参加する人
してくれます。住宅であれがはたして何人いるか、こ
ば、隣りのお姑さんが訪ねるというたちよっとしたことに
て来てもよいように、実に も、もっと日本の農民は考
きれいに整理されているわえなければならないと思い
けです。それでも学友の家ます。私たち生徒も一しょ
を日本人が訪ねるということに講習を受け、食事も共に
とはやはりめずらしいと見します。
えて、新聞記者に追い廻され　学校生活も余すところ二
たのには閉口しました。か月、そしてそれがデンマ
一月に入ると毎週四日づつ三回短期講習会が開かれ　ーク生活の最後です。一つ
二月に入っても開催されるで多くものものを見聞し、
とのことです。これは農家勉強して帰りたいと考えて
の人々を対象にしたもので います。
三十代四十代の人々が中心　まだまだ寒さきびしき節
となり、技術的な問題、経柄充分お体に気をつけられ
済問題、時事問題等熱心に お励みくださることをお祈
講師の話に耳を傾けており りいたします。
ます。四日間で一〇〇クロ　一月三十一日
ーネ（五〇〇〇円）とか、　ソイレ農学校に於いて
大へんな金ですがいつの講　八島博正
習も五〇人の定員がオーバーする有様です。日本でこ